

2019東北ヘアモード学院

理容科 シラバス

2019年度 授業計画 (シラバス)

課目名	関係法規・制度	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	貝沼
単位数	1単位	履修時期	1年次 通年	授業方法	講義	備考	
学習目標	理容師・美容師の業務に関する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解させ、あわせて、公衆衛生を担う理容師・美容師の社会的責務、職業倫理について、自覚を促すこと。理容・美容の業務に関する規定内容を正確に理解させるとともに、衛生法規が、理容業・美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させること。						
使用するテキスト	『関係法規・制度』（公益社団法人日本理容美容教育センター） 『理容師法令集』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年間の授業計画	年間の授業計画 1 法制度の概要 ・人と社会生活   ・法とは何か 2 衛生行政の概要 ・衛生行政       ・保健所 3 理容師法 ・理容師法の目的   ・用語の定義       ・理容師試験 ・免許と登録       ・美容師の義務    ・管理美容師 ・理容所の開設     ・開設者の衛生措置   ・理容所以外での業務 ・立入検査         ・行政処分         ・罰則 4 関連法規 ・生活衛生関係営業の運営の適正化及び進行に関する法律 ・株式会社日本政策金融公庫法 ・労働基準法 ・労働安全衛生法 ・地域保健法 ・消費者基本法						
試験の実施方法	期末考査を実施						
成績評価方法	期末考査の評点 ノート提出、出席状況や授業態度の評点						

2019年度 授業計画 (シラバス)

課目名	衛生管理	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	菊地
単位数	3単位	履修時期	1、2年次 通年	授業方法	講義	備考	
学習目標	<p>公衆衛生の意義と本質とを明らかにすることによって、理容師・美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させることが必要であること。特に、生活衛生の意義と目的について、理容師・美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させること。理容師・美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、理容・美容における衛生措置の重要性について理解させること。特に、理容・美容器具などの消毒法は、理容・美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させるとともに、その適正な実施方法を身に付けさせることが肝要であること。</p>						
使用するテキスト	衛生管理 (公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年間の授業計画	<p>1編 公衆衛生</p> <p>1章 公衆衛生の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生の意義と課題</li> <li>・公衆衛生発展の歴史</li> <li>・理容師と公衆衛生</li> <li>・保健所と理容業</li> </ul> <p>2章 予防医学と保健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防医学</li> <li>・公衆衛生と統計</li> <li>・保健</li> <li>・母子保健</li> <li>・成人高齢者保健</li> <li>・精神保健</li> </ul> <p>2編 環境衛生</p> <p>1章 環境衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境衛生の概要</li> <li>・空気・水・日光</li> <li>・衣服住居と健康</li> <li>・上下水道と廃棄物</li> <li>・衛生害虫とネズミ</li> <li>・公害と環境保全</li> </ul> <p>2章 美容所の衛生環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容所の衛生管理</li> <li>・衛生取扱い</li> </ul> <p>3編 感染症</p> <p>1章 感染症の総論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と感染症</li> <li>・病原微生物</li> <li>・感染症予防</li> </ul> <p>2章 感染症の各論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容と感染症</li> <li>・主な感染症</li> </ul> <p>4編 衛生管理技術</p> <p>1章 消毒法総論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒とは</li> <li>・消毒の意義</li> <li>・美容業務と消毒との関係</li> </ul> <p>2章 消毒法各論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学的消毒法</li> <li>・科学的消毒法</li> <li>・実施上の注意</li> </ul> <p>3章 消毒法実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種消毒薬</li> <li>・消毒の実際</li> <li>・清潔法の実際</li> </ul>						
試験の実施方法	前期、後期定期考査内を実施						
成績評価方法	定期考査の点数をそのまま前期、後期の成績評価とする。						

2019年度 授業計画 (シラバス)							
課 目 名	保健	課 目 区 分	必修課目	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	佐藤
単 位 数	3単位	履 修 時 期	1、2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	
学習目標	理容・美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得を目的とすること。理容・美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させること。						
使用するテキスト	『保健』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	<p>1 人体構造及び機能</p> <p>1. 頭部、顔部、頸部の体表解剖学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体各部の名称</li> <li>・頭部、顔部、頸部の体表解剖学</li> </ul> <p>2. 骨格器系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の種類と構造</li> <li>・骨の連結</li> <li>・骨格器系とのはたらき</li> </ul> <p>3. 筋系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋の種類とその特徴</li> <li>・骨格筋とのはたらき</li> <li>・表情筋</li> </ul> <p>4. 神経系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系の成り立ち</li> <li>・中枢神経とのはたらき</li> <li>・末梢神経とのはたらき</li> </ul> <p>5. 感覚器系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚</li> <li>・聴覚</li> <li>・平衡感覚</li> <li>・味覚</li> <li>・嗅覚</li> <li>・皮膚感覚</li> </ul> <p>6. 血液・循環器系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血液のあらまし</li> <li>・血液循環のしくみ</li> <li>・心臓と血管のはたらき</li> <li>・リンパ</li> </ul> <p>7. 呼吸器系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器系のあらまし</li> <li>・気道</li> <li>・肺の仕組みとガス交換</li> <li>・呼吸運動</li> </ul> <p>8. 消化器系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器系のあらまし</li> <li>・消化器系の仕組み</li> <li>・消化管のはたらき</li> </ul> <p>2 皮膚科学</p> <p>1. 皮膚の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表皮、真皮、皮下組織</li> </ul> <p>2. 皮膚付属器官の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毛</li> <li>・脂腺</li> <li>・汗腺</li> <li>・爪</li> </ul> <p>3. 皮膚の循環器系と神経系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血管</li> <li>・リンパ管</li> <li>・神経</li> </ul> <p>4. 皮膚と皮膚付属機関の生理機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対外保護</li> <li>・体温調節</li> <li>・知覚と皮膚反射</li> <li>・呼吸</li> <li>・吸収</li> </ul> <p>5. 皮膚と皮膚付属器官の保健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚と全身状態</li> <li>・皮膚と精神</li> <li>・皮膚と栄養</li> <li>・皮膚とし好品</li> </ul> <p>6. 皮膚と皮膚付属器官の疾患・皮膚異常とその種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化膿菌、ウイルス、真菌、害虫</li> </ul>						
試 験 の 実 施 方 法	前期末、後期末にそれぞれ期末考査を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の評点 平常点						

2019年度 授業計画 (シラバス)							
課目名	化粧品化学	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	黒沢
単位数	2単位	履修時期	1、2年次 通年	授業方法	講義	備考	
学習目標	<p>化粧品は、理容・美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解させるとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識させること。理容・美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、化粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法を習熟させ、あわせて、化粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶことを目標とする。</p>						
使用するテキスト	化粧品化学 (公益社団法人 日本理容美容教育センター)						
年間の授業計画	<p>1章 化粧品概論  2章 化粧品用原料  3章 基礎化粧品  4章 メイクアップ用化粧品  5章 頭皮・毛髪用化粧品  6章 芳香製品と特殊化粧品</p>						
試験の実施方法	前期末、後期末にそれぞれ期末考査を実施						
成績評価方法	<p>期末考査の評点  出席状況や授業態度・ノート提出の評点</p>						

2019年度 授業計画 (シラバス)							
課目名	文化論	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	菅原
単位数	2単位	履修時期	1、2年次 通年	授業方法	講義	備考	
学習目標	日本・西洋の文化の歴史、主に髪型・服装・メイクの変遷について学ぶ						
使用するテキスト	『文化論』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年間の授業計画	<p>年間の授業計画</p> <p>1. 総論</p> <p>2. 日本の理容業・美容業の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理容業・美容業の発生</li> <li>・江戸、近代、現代の理容業・美容業</li> </ul> <p>3. ファッション文化史 日本編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文、弥生、古墳時代</li> <li>・飛鳥、奈良、平安時代</li> <li>・鎌倉、室町、戦国時代</li> <li>・安土桃山時代</li> <li>・江戸時代</li> <li>・明治、大正、昭和20年まで</li> <li>・1945～1950年代</li> <li>・1960～1970年代</li> <li>・1980～1990年代</li> <li>・2000年代以降</li> </ul> <p>1. ファッション文化史 西洋編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代エジプト</li> <li>・古代ギリシャ ローマ</li> <li>・古代ゲルマン</li> <li>・中世ヨーロッパ</li> <li>・近世Ⅱ 17世紀</li> <li>・近代Ⅰ</li> <li>・近代Ⅲ 18世紀</li> <li>・近代Ⅱ 19世紀</li> <li>・現代Ⅰ</li> <li>・現代Ⅱ</li> <li>・現代Ⅲ</li> <li>・現代Ⅳ 1960年代</li> <li>・現代Ⅴ 1970年代・現代Ⅵ 1980年代</li> <li>・現代Ⅶ</li> </ul> <p>2. 礼装の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和装の礼装</li> <li>・洋装の礼装</li> </ul>						
試験の実施方法	前期、期末考査を実施						
成績評価方法	<p>考査の採点</p> <p>ノート提出、授業態度、出席日数の評点</p>						

2019年度 授業計画 (シラバス)							
課目名	理容技術理論	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	菊池
単位数	5単位	履修時期	1、2年次 通年	授業方法	講義	備考	
学習目標	理容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力を身につけさせる						
使用するテキスト	理容技術理論1 (公益社団法人日本理容美容教育センター) 理容技術理論2 (公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年間の授業計画	序章 理容技術理論を学ぶにあたって 1章 理容技術の基礎 2章 理容用具 3章 ヘアデザイン 4章 ヘアカットイング 5章 ヘアセットイング 6章 パーマネントセット 7章 ヘアカラーリング 8章 シェービング 9章 理容エステティック 10章 理容クリニック 11章 シャンプーイング&リンシング 12章 理容マッサージ 13章 ヘアトリートメント 14章 スカルプトリートメント						
試験の実施方法	前期・後期定期考査内を実施						
成績評価方法	考査の採点、ノート提出、小テスト、授業への取組みの評点						

2019年度 授業計画 (シラバス)							
課目名	運営管理	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	西谷
単位数	1単位	履修時期	1年次 通年	授業方法	講義	備考	
学習目標	<p>経営管理及び労務管理の基本的事項を学習することによって、理容業・美容業における経営管理手法の重要性を認識させ、理容所・美容所の経営に役立たせること。理容業・美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に付けさせること。</p>						
使用するテキスト	『運営管理』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年間の授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営者の視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営とは、経営者とは</li> <li>・ 理容業、美容業の経営について</li> <li>・ 資金の管理</li> </ul> </li> <li>2. 人という資源 従業員としての視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人という資源</li> <li>・ 健康、安全な職場環境の実現</li> <li>・ 従業員としての視点から</li> </ul> </li> <li>3. 顧客のために <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス デザイン</li> <li>・ マーケティング</li> <li>・ サービスにおける人の役割</li> </ul> </li> </ol>						
試験の実施方法	前期、後期考査を実施						
成績評価方法	<p>前期、後期考査の採点 ノート提出、出席率、授業態度の評点</p>						



## 2019年度 授業計画 (シラバス)

課目名	理容実習	課目区分	必修課目	対象学科	理容科	担当教員	菊池、原、千葉、黒沢
単位数	30単位	履修時期	1、2年次 通年	授業方法	実習	備考	
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
理容師として理容室に勤務していた教員が、実際に理容室で行われているカット、ヘアセット、シェービング等の技術を取り入れた授業を行う。							
学習目標	理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため基礎的技術を身につけさせるとともに、これらの基本的操作を組み合わせる技術を習得させる						
使用するテキスト	『理容実習1』（公益社団法人理容美容教育センター） 『理容実習2』（公益社団法人理容美容教育センター）						
年間の授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スタンダードヘア</li> <li>2. デザインヘア</li> <li>3. ヘアセッティング</li> <li>4. パーマネントウェーブ</li> <li>5. アイアニング</li> <li>6. ヘアカラーリング</li> <li>7. シェービング</li> <li>8. ハンドケア</li> <li>9. フットケア</li> <li>10. ヘアクリニック</li> <li>11. シャンプーイング&amp;リンシング</li> <li>12. ヘッドマッサージ</li> <li>13. クリニックマッサージ</li> </ol>						
試験の実施方法	前期、後期に実技試験を実施						
成績評価方法	実技試験の評点 授業態度、取り組み方、出席状況の評点						

2019年度 授業計画 (シラバス)

課 目 名	社会福祉概論	課 目 区 分	選択課目 一般教養	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	翁
単 位 数	2単位	履 修 時 期	1、2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	
学習目標	<p>現在、わが国は未曾有の少子高齢人口減少社会を迎えています。</p> <p>このような時代の中で、理美容業も競争にさらされ、厳しい環境に直面しています。この講義を通じ高齢者や障害者の方々の心と体の特長を知り、適切な対応が出来る知識と技術を身に付け、地域の人々から支持される理美容師を目指します。</p>						
使用する テキスト	『社会福祉概論』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉</li> <li>2. 医療保障</li> <li>3. 所得保障</li> <li>4. 社会福祉</li> <li>5. 高齢者の障害者の体と心</li> <li>6. 高齢者・障害者の介助</li> <li>7. 高齢者・障害者の介助</li> <li>8. 理美容師と社会貢献活動</li> <li>9. 高齢者・障害者に対する理容・美容の実践</li> </ol>						
試 験 の 実 施 方 法	・前期末に期末考査を実施						
成 績 評 価 方 法	・期末考査の評点						

2019年度 授業計画 (シラバス)							
課目名	総合学習	課目区分	選択課目 一般教養	対象学科	理容科	担当教員	佐藤、菅原 山口、菅原(愛)
単位数	2単位	履修時期	1、2年次 通年	授業方法	講義	備考	
学習目標	卒業後直ぐに離職することなく業界で活躍し長く働くために、会社選びに必要な知識や社会人としての基本を理解し、将来のキャリアプランを確立させることを目標とします。						
使用するテキスト	『ビジネスマナー』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年間の授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理美容業界について キャリアプラン</li> <li>2. 働く時の基礎知識</li> <li>3. 進路ガイダンス</li> <li>4. 職業講話</li> <li>5. 社会人としての基本</li> <li>6. 正しい動作</li> <li>7. 言葉づかい</li> <li>8. 接客基礎</li> <li>9. 一般常識、各種マナー</li> </ol>						
試験の実施方法	レポート提出						
成績評価方法	レポートの評点 授業態度、取り組み方、出席状況の評点						

## 2019年度 授業計画 (シラバス)

課 目 名	理容カウンセリング	課 目 区 分	選択課目 専門教育	対 象 学 科	理容科	担 当 教 員	小野寺
単 位 数	2単位	履 修 時 期	1、2年次 通年	授 業 方 法	講義	備 考	
学習目標	理・美容師が必要とさせる対人コミュニケーションスキルの習得を目標とする。 カウンセリングに必要な基礎知識を学習し、ロールプレイングを行うことによって、 カウンセリングを体験し、実践へとつなげる。						
使用する テキスト	『理容・美容カウンセリング』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年 間 の 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリング概論</li> <li>2. カウンセリングとは</li> <li>3. カウンセリング手法</li> <li>4. カウンセリングに必要な基礎知識</li> <li>5. カウンセリングの訓練</li> <li>6. 職場の精神衛生管理</li> <li>7. 毛髪・皮膚コンサルティング</li> <li>8. サロンでのコンサルティングの意義</li> <li>9. 毛髪診断パーマ前のコンサルティング</li> <li>10. その他の施術前のコンサルティング</li> <li>11. コンサルティングのその他の知識</li> </ol>						
試 験 の 実 施 方 法	前期末に期末考査を実施						
成 績 評 価 方 法	期末考査の評点 ノート提出、出席率、授業態度の評点						

2019年度 授業計画 (シラバス)							
課目名	エステティック	課目区分	選択課目 専門教育	対象学科	理容科	担当教員	葛西
単位数	2単位	履修時期	1、2年次 後期	授業方法	講義 実習	備考	
学習目標	エステティックの定義・目的を学び美の提供者としての心構え、意識の確立する事を目標とする。						
使用するテキスト	『理容技術理論2』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年間の授業計画	エステティック 1. エステティック概論 2. 皮膚の生理と構造 3. カウンセリング 4. 理容におけるマッサージ理論 5. フェイシャルケア技術 6. フェイシャル及びデコルテマッサージ 7. フェイシャルパック 8. ボディケア技術 9. ボディマッサージ 10. 実習						
試験の実施方法	前期、後期末に考査を実施						
成績評価方法	考査の評点 授業態度、出席率の評点						

2019年度 授業計画 (シラバス)

課目名	メイクアップ	課目区分	選択課目 専門教育	対象学科	理容科	担当教員	佐藤
単位数	2単位	履修時期	1、2年次 通年	授業方法	講義 実習	備考	
学習目標	メイクの基礎的技術に応用を加え技術の幅を広げる						
使用するテキスト	『美容技術理論2』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年間の授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験心理学</li> <li>2. 色彩学</li> <li>3. 骨格学</li> <li>4. スキンケア</li> <li>5. ベースメイク</li> <li>6. アイメイク</li> <li>7. アイブロウメイクアップ</li> <li>8. リップメイク</li> <li>9. 特殊メイク</li> <li>10. 認定試験</li> </ol>						
試験の実施方法	後期考査を実施する。						
成績評価方法	後期考査の評点 ノート提出、小テスト、出席率、授業態度の評点						

2019年度 授業計画 (シラバス)							
課目名	総合実習	課目区分	選択課目 専門教育	対象 学科	理容科	担当 教員	佐藤、菅原 山口、菅原(愛)
単位数	6単位	履修 時期	1、2年次 通年	授業 方法	実習	備考	
「実務経験のある教員による授業」に該当する課目							
美容師として美容室に勤務していた教員が、実際に美容室で行われている技術を取り入れた授業を行う。							
学習目標	就職後に即戦力になる事を目的とし、現場で必要な基礎技術を集中的に修得する。						
使用する テキスト	『美容実習』 (公益社団法人日本理容美容教育センター) 『理容実習』 (公益社団法人日本理容美容教育センター)						
年間の 授業計画	1. シャンプーイング ・クロスかけ   ・ブラッシング   ・ヘッドマッサージ   ・サイドシャンプー ・バックシャンプー   ・トリートメント 2. スタイリング ・ブロー   ・ヘアアレンジ   ・アイロン操作   ・アップ 3. カラーリング基礎 ・グレイカラー   ・リタッチ   ・ブリーチ   ・マニキュア						
試験の 実施方法	前期、後期に実技試験を実施						
成績評価 方法	実技試験の評点 授業態度、取り組み方、出席状況の評点						

2019年度 授業計画 (シラバス)

課目名	ネイル	課目区分	選択課目 専門教育	対象学科	理容科	担当 教員	岩渕
単位数	2単位	履修 時期	1年次 通年	授業 方法	講義・ 実習	備考	
学習目標	すべてのネイル技術のベースとなる基本的な技術及び知識の習得を目的としている。ネイルケア、ポリッシュ塗布、アートを学びます。						
使用する テキスト	『美容技術理論2』（公益社団法人日本理容美容教育センター）						
年間の 授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネイル技術概論</li> <li>2. ネイルの種類爪の構造と機能</li> <li>3. ネイルケア実習</li> <li>4. 爪のカット形状、ネイル技術と公衆衛生ネイルケア実習</li> <li>5. カウンセリング、ネイルケア</li> <li>6. ネイルケアポリッシュ塗布 アーティフィシャルネイル</li> <li>7. ネイルケアポリッシュ塗布</li> <li>8. 手と足のマッサージ</li> <li>9. ネイルケア、ポリッシュ塗布アート</li> </ol>						
試験の 実施方法	前期、後期考査を実施						
成績評価 方法	考査の評点 授業態度、ノート提出、出席率の評点						



2019年度 授業計画 (シラバス)

課目名	美学	課目区分	選択課目 専門教育	対象 学科	理容科	担当 教員	菅原
単位数	2単位	履修 時期	1、2年次 通年	授業 方法	講義 実習	備考	
学習目標	ヘアデザイン画を通じ、よりお客様に適したヘアスタイルを提供できるようなデザイン力を磨く。同時に、集客の為の広告宣伝のデザインを学び作品を制作する。						
使用する テキスト							
年間の 授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘアデザイン画</li> <li>2. POP、チラシの作成の仕方</li> <li>3. 広告デザイン、伝達デザイン、色彩構成、宣伝広告作成</li> </ol>						
試験の 実施方法	作品提出						
成績評価 方法	作品の評点 授業態度、取り組み方、出席状況の評点						